

令和元年度箕面国有林におけるニホンジカの生息状況外モニタリング調査報告書 —概要版—

令和2年3月

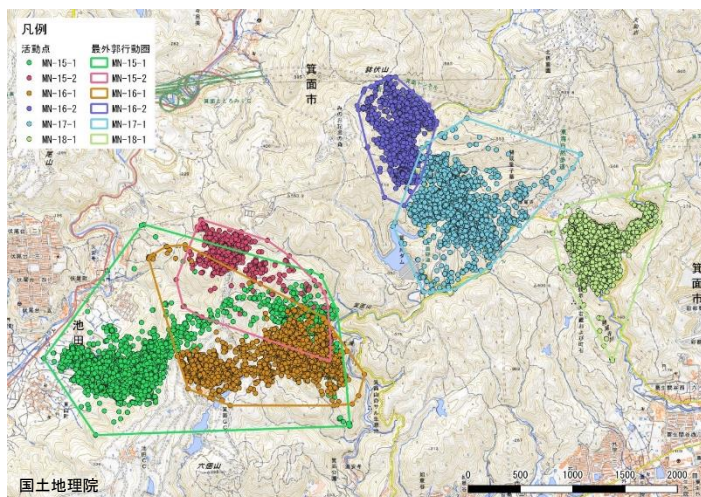
(株)野生動物保護管理事務所

GPS テレメトリー調査

平成30年度にGPS首輪を装着したシカの行動特性と、平成27年度から令和元年度までのGPS首輪装着個体（6頭）の行動特性について解析を行った。

結果

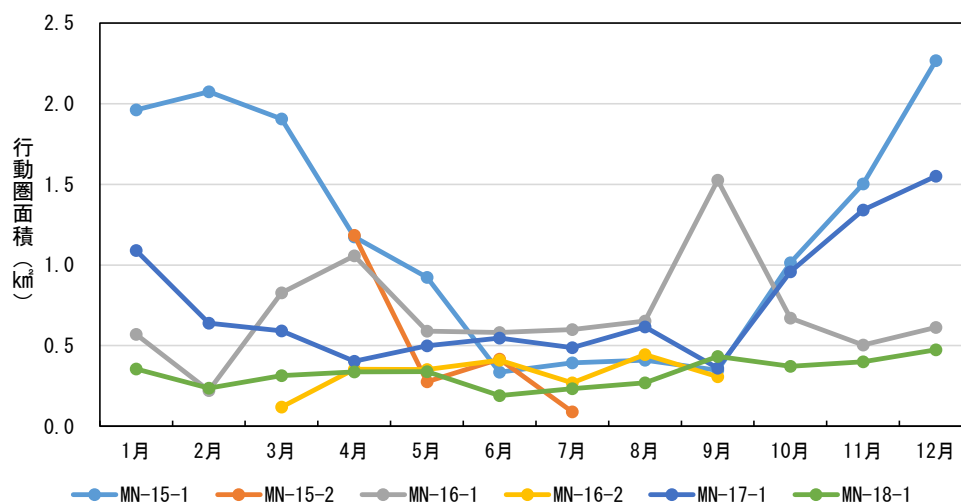
- ・箕面国有林に生息するシカは季節的な移動をせず、定住性が高いことが分かった。
- ・月別の行動圏面積の変化では、すべての個体が5～8月の行動圏が狭くなる傾向があった。
- ・一般化線形モデルによる環境解析の結果、東斜面と南斜面、斜度30～40°、落葉広葉樹林・植林・耕作地を好むことが分かった。
- ・環境解析の結果を用いて、シカの利用ポテンシャルマップを作成した。



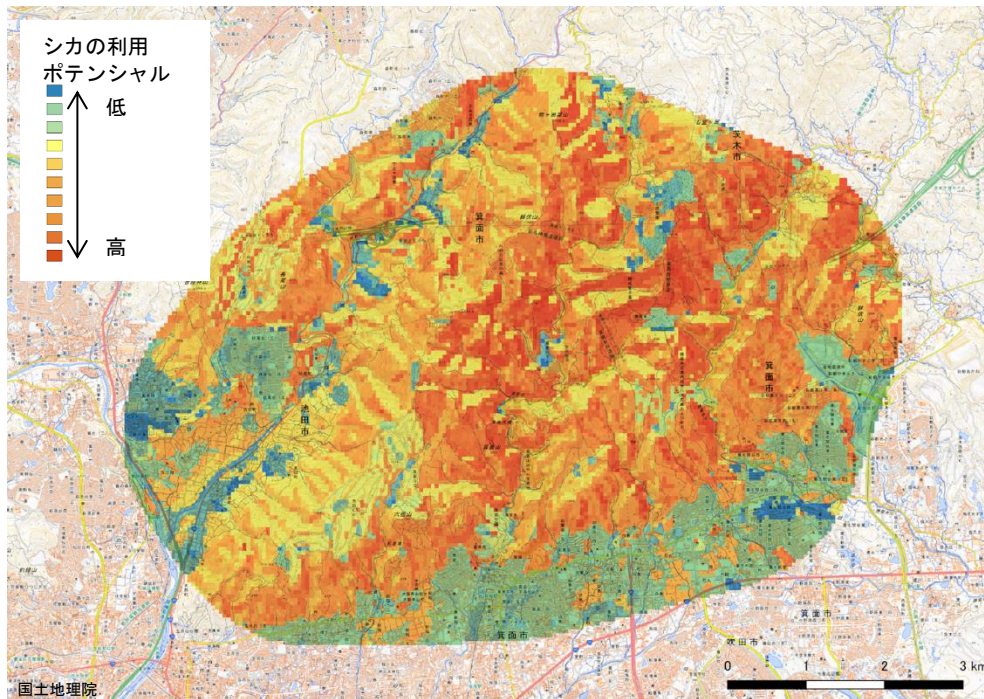
GPS 首輪装着個体の追跡期間および行動圏面積

個体ID	追跡日数	最外郭法による 行動圏面積 (km ²)
MN-15-1	387	4.339
MN-15-2	139	1.205
MN-16-1	344	1.988
MN-16-2	161	0.607
MN-17-1	470	1.758
MN-18-1	481	0.994

箕面国有林におけるGPS首輪を装着した
シカの活動点および行動圏
(平成27年度～令和元年度)



個体別行動圏面積の月変化



図● シカの利用ポテンシャルマップ

ニホンジカの利用環境調査

- ・環境解析の結果、夏は常緑広葉樹林および落葉広樹林、冬は常緑広葉樹林の選択性が高いことが明らかとなった。
- ・下層植生（低木層・草本層）に餌植物があるところを選択的に利用する。
- ・落葉の被覆率が高いところを選択的に利用する。
- ・高木層の植被率が低い所、平均高が低い所を選択的に利用する。
- ・箕面国有林に生息するシカの生息地選択には餌植物の有無が重要な要素となっている。
- ・シカの口の届く範囲に餌植物があることが重要な生息地選択の要素であること、また攪乱され遷移途中の林分を好むことが明らかとなった。

環境解析結果（夏季）

	推定値	標準誤差	p値
(切片)	7.314804	0.958844	< 0.001 ***
常緑林	2.158145	0.280305	< 0.001 ***
落広林	0.60599	0.177921	< 0.001 ***
混交林(落広林・スギヒノキ)	1.727302	1.012893	0.088136
高木層の餌植物の有無	-0.985234	0.237923	< 0.001 ***
高木層植被率	-0.059942	0.009486	< 0.001 ***
低木層の餌植物の有無	-0.555239	0.200605	0.005643 **
低木層植被率	0.015168	0.002248	< 0.001 ***
草本層の餌植物の有無	1.307621	0.350131	< 0.001 ***
草本層の植被率	-0.046067	0.02677	0.085273
落葉の被覆率	0.00611	0.003661	0.095155 *

***: $p < 0.001$, **: $p < 0.01$, *: $p < 0.05$ を示す。

環境解析結果（冬季）

	推定値	標準誤差	p値
(切片)	-0.267266	0.6854	0.696579
その他	-0.266245	0.335849	0.427922
常広林	1.083023	0.236128	< 0.001 ***
落広林	0.042179	0.14587	0.772465
高木層の餌植物の有無	-1.543053	0.33529	< 0.001 ***
高木層平均高m	-0.026378	0.016387	0.10747
高木層植被率	0.005671	0.002659	0.032971 *
低木層の餌植物の有無	0.947425	0.238469	< 0.001 ***
低木層植被率	-0.009438	0.003042	0.001919 **
草本層の餌植物の有無	0.410869	0.117343	< 0.001 ***
草本層植被率	0.021561	0.005781	< 0.001 ***
落葉の被覆率	0.021454	0.004351	< 0.001 ***

***: $p < 0.001$, **: $p < 0.01$, *: $p < 0.05$ を示す。